

令和7年度具体的な学校経営目標・計画 【最終評価】 岡山県立真庭高等学校

A：達成基準を達成した、または上回った。 B：達成基準をほぼ達成した。 C：達成基準を下回った。 ※SSQ:学校自己評価アンケート School Self-evaluation Questionnaire

学校経営目標	担当	具体的計画	達成基準	中間評価	最終評価	次年度へ向けて	最終評価																																																						
1 進路実現のために必要な学習力の獲得	1年	【③】 自己の将来や進路について考える機会を作り、生徒の進路意識を向上させる。 ・各学期に1回以上、生徒全員と個人面談を行う。 ・進路課と連携して年間2回進路意識を高めるLHRを実施する。	A：個人面談年間4回、LHR2回 B：個人面談年間3回、LHR1回  SSQ（生徒）「自分の進路について真剣に考えることができた」と回答した生徒の割合 80%以上	個人面談：A・C科2回実施、N科3回実施 LHR：全クラス1回実施  SSQ（生徒）「自分の進路について真剣に考えることができた」と回答した生徒-69.1%	B SSQ（生徒）「自分の進路について真剣に考えることができた」と回答した生徒-84.5%	早期に進路目標が定まるように生徒面談を充実させ、進路指導課・専門科・学年団・保護者の共通理解を図り進路指導にあたる。	A																																																						
	3年	【②・③】 目標・目的を持ち、資格検定等の取得や校外でのボランティア活動等への参加ができる。その体験をもとに、自己認識を深め、肯定的な自己表現ができる。 ・資格検定、ボランティア活動等の情報を生徒に周知し、挑戦・参加を促す。 ・資格検定、ボランティア活動等の体験について言語化させることで、自己理解や進路選択、生き方について、思考を深めさせる。	SSQ4項目（No.2・9・15・29）での生徒の肯定的評価 A：9割以上 B：8割以上  (※表R6) <table border="1"> <tr> <th colspan="2">生徒</th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>全体</th> </tr> <tr> <td>2</td> <td>進学や各種の資格取得、検定の合格に向けた指導が十分行われている。</td> <td>94%</td> <td>91%</td> <td>90%</td> <td>92%</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>学校は、進路選択やその実現のために適切な進路指導を行っている。</td> <td>98%</td> <td>94%</td> <td>92%</td> <td>94%</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学校は、SDGsの達成に向けて、TR(真庭大学)や地域合同防災訓練、ボランティア活動などの教育活動を実施している。</td> <td>97%</td> <td>90%</td> <td>87%</td> <td>92%</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>真庭高校に入学してよかった。</td> <td>90%</td> <td>81%</td> <td>85%</td> <td>84%</td> </tr> </table>	生徒		1年	2年	3年	全体	2	進学や各種の資格取得、検定の合格に向けた指導が十分行われている。	94%	91%	90%	92%	9	学校は、進路選択やその実現のために適切な進路指導を行っている。	98%	94%	92%	94%	15	学校は、SDGsの達成に向けて、TR(真庭大学)や地域合同防災訓練、ボランティア活動などの教育活動を実施している。	97%	90%	87%	92%	29	真庭高校に入学してよかった。	90%	81%	85%	84%	生徒アンケートの結果、2項目で9割を下回った。引き続き卒業まで指導を継続する。  <table border="1"> <tr> <td>2</td> <td>進学や各種の資格取得、検定の合格に向けた指導が十分行われている。</td> <td>83%</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>学校は、進路選択やその実現のために適切な進路指導を行っている。</td> <td>93%</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学校は、TRや地域合同防災訓練、ボランティア活動などの教育活動を実施している。</td> <td>93%</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>真庭高校に入学してよかった。</td> <td>89%</td> </tr> </table>	2	進学や各種の資格取得、検定の合格に向けた指導が十分行われている。	83%	9	学校は、進路選択やその実現のために適切な進路指導を行っている。	93%	15	学校は、TRや地域合同防災訓練、ボランティア活動などの教育活動を実施している。	93%	29	真庭高校に入学してよかった。	89%	B 12月実施SSQ4項目での3年生の集計結果、2項目で9割を下回ったが、3項目について中間評価でのアンケート数値よりも肯定的回答率が上がった。  <table border="1"> <tr> <td>2</td> <td>進学や各種の資格取得、検定の合格に向けた指導が十分行われている。</td> <td>87%</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>学校は、進路選択やその実現のために適切な進路指導を行っている。</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学校は、TRや地域合同防災訓練、ボランティア活動などの教育活動を実施している。</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>真庭高校に入学してよかった。</td> <td>89%</td> </tr> </table>	2	進学や各種の資格取得、検定の合格に向けた指導が十分行われている。	87%	9	学校は、進路選択やその実現のために適切な進路指導を行っている。	96%	15	学校は、TRや地域合同防災訓練、ボランティア活動などの教育活動を実施している。	95%	29	真庭高校に入学してよかった。	89%	・資格や検定、ボランティア活動等の情報を、進路指導と関連して生徒に周知し、意識づけすることができた。 ・真庭市の助成制度を活用することによって、検定の実験者を増やすことができた。 ・資格取得や検定の合格に向けた指導が、生徒の主体性にゆだねられているため合格率の引き上げに課題が残った。 ・岡山大学農学部への進学指導について、共有する。	B
	生徒		1年	2年	3年	全体																																																							
	2	進学や各種の資格取得、検定の合格に向けた指導が十分行われている。	94%	91%	90%	92%																																																							
9	学校は、進路選択やその実現のために適切な進路指導を行っている。	98%	94%	92%	94%																																																								
15	学校は、SDGsの達成に向けて、TR(真庭大学)や地域合同防災訓練、ボランティア活動などの教育活動を実施している。	97%	90%	87%	92%																																																								
29	真庭高校に入学してよかった。	90%	81%	85%	84%																																																								
2	進学や各種の資格取得、検定の合格に向けた指導が十分行われている。	83%																																																											
9	学校は、進路選択やその実現のために適切な進路指導を行っている。	93%																																																											
15	学校は、TRや地域合同防災訓練、ボランティア活動などの教育活動を実施している。	93%																																																											
29	真庭高校に入学してよかった。	89%																																																											
2	進学や各種の資格取得、検定の合格に向けた指導が十分行われている。	87%																																																											
9	学校は、進路選択やその実現のために適切な進路指導を行っている。	96%																																																											
15	学校は、TRや地域合同防災訓練、ボランティア活動などの教育活動を実施している。	95%																																																											
29	真庭高校に入学してよかった。	89%																																																											
進路指導課	【③】 3年生が進路決定に際し、進路先を比較・検討するため、2つ以上のオープンキャンパスや応募前職場見学に参加する。進路指導課の相談機能を充実させ、生徒の主体的な進路決定につなげる。	オープンキャンパスや応募前職場見学に2つ以上参加した3年生（A・C）の割合 A：90%以上 B：90%未満	応募前職場見学には1名を除き複数社に参加している。最大数は4社である。進学については、ほぼ志望校が定まりつつあり、いずれも複数校を検討している。	B アンケートの結果は次のとおりであった。 ・1社（校）…6名 ・2社（校）…18名 ・3社（校）…18名 ・4社（校）…6名 ・5社（校）…2名 2社（校）以上の見学をし、比較検討できた割合→88%	・3年生進級段階で、すでに進路先を確定している者もいるが、可能な限り比較検討させたい。 ・進学者向けに、校外の会場ガイダンス参加を検討する。	B																																																							
看護科	【①】 看護に関する専門的な知識・技術を習得させる。 ・臨床実習につながる授業を組み立てる。 ・多様な学習スタイルを設定し、協働しながら主体的に考え抜く力を身に付けさせる。 1) 臨床実習と校内演習の記録物の検討と改善 2) 技術テストの実施（各学年2回/年） 3) 放課後学習会の開催 4) 他学年との交流学習の実施	A) 1)年2回実施 2) 1・2年は年2回、3年は年1回 3) 各考査1週間前に5回実施 4) 3学年で年1回実施  1)～4)を実施し、観点別評価が以下のとおり。 知識・技術：AまたはBが80%以上 主体：AまたはBが80%以上	1) 実習記録物検討：3回（1年、3年前後半） 校内演習レポート検討：2回（4月、7月） 2) 1・2年：1回実施 3) 2回実施（1学期中間・期末考査前） 4) 3回実施（1・2年、専攻科1年解剖生理運動会）  （1・2年解剖生理学習会と交流会） （3年、専攻科1年看護過程学習会） 【1学期】（知識・技術）78.9% （主体）84.2%	B 1) 実習記録物検討：4回（1～3年） 校内演習レポート検討：2回（4月、7月） 看護科内規及び申合せの検討：適宜実施 2) 1年2回、2年2回、3年1回 3) 5回実施（各考査前） 4) 3回実施（中間評価のとおり） 【2学期】（知識・技術）85.1% （主体）67.2%	・リアルタイムで教員間で情報共有を行うことで、臨床実習の記録物や校内演習の記録物の検討を行うことができた。引き続き、継続する。 ・放課後学習会の参加率をあげるために、全員参加を促す周知をし、生徒への意識づけを行っていく。 ・観点別評価（主体）はかなり低迷しており、提出期限の厳守の動機づけを各学年で行っていく必要がある。 ・教員からだけでなく、社会人講師活用事業での講師からの助言や、学年交流会での他学年から助言が効果的であると考えられる。	B																																																							
専攻科	【③】 看護師国家試験に向けて、主体的に学習に取り組むことができるような学習場面を設定する。 ・朝の小テストの実施 ・模試実施後の項目学習 ・放課後補習の実施 ・生徒による小テスト計画	<前期模試得点率> A：必修問題：全員80%以上 一般状況：全員65%以上 B：必修問題：半数が75%以上 一般状況：半数が60%以上 <後期模試得点率> A：必修問題：全員85%以上 一般状況：全員70%以上 B：必修問題：全員80%以上 一般状況：全員65%以上	<前期> 専攻科2年 模試成績目標達成率推移（%） <table border="1"> <tr> <th>回（実施月）</th> <th>必修</th> <th>一般</th> </tr> <tr> <td>1（5月）</td> <td>64</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>2（7月）</td> <td>90</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>3（8月）</td> <td>90</td> <td>81</td> </tr> </table> 目標達成まで伸びてきている生徒が増加はしているが、全員には至らずB評価。生徒主導の小テスト、放課後学習等で学習者の取組の意識は向上しているが、不合格域にある生徒の対策を強化したい。	回（実施月）	必修	一般	1（5月）	64	63	2（7月）	90	72	3（8月）	90	81	B <後期> 専攻科2年模試成績 目標達成者数割合の推移（%） <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">回（実施月）</th> <th colspan="2">必修</th> <th colspan="2">一般・状況</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>A</th> <th>B</th> </tr> <tr> <td>4回（11月）</td> <td>45%</td> <td>63%</td> <td>18%</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>5回（12月）</td> <td>81%</td> <td>100%</td> <td>36%</td> <td>81%</td> </tr> <tr> <td>6回（1月）</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>72%</td> <td>90%</td> </tr> </table> 前期に比べ目標値は上げているが、必修問題については全員が合格ラインを大きく超えることができるようになった。しかし、一般状況が合格ラインに到達しない生徒が2名。補習期間も活用し、合格ラインのすることを目指したい。	回（実施月）	必修		一般・状況		A	B	A	B	4回（11月）	45%	63%	18%	72%	5回（12月）	81%	100%	36%	81%	6回（1月）	100%	100%	72%	90%	・専攻科1年生からの国試対策として、必修問題小テストの継続 ・項目学習の方法について個別指導の徹底 ・模試実施後の個別面談の継続 ・自己採点シートの見直し（2年間の個人成績が可視化できるような工夫をする） ・模試計画の見直し（採用する模試と内容および実施時期）	B																			
回（実施月）	必修	一般																																																											
1（5月）	64	63																																																											
2（7月）	90	72																																																											
3（8月）	90	81																																																											
回（実施月）	必修		一般・状況																																																										
	A	B	A	B																																																									
4回（11月）	45%	63%	18%	72%																																																									
5回（12月）	81%	100%	36%	81%																																																									
6回（1月）	100%	100%	72%	90%																																																									
2 自己指導能力の育成	生徒課	【①】 校内での日常の中で、あいさつ指導、服装指導を日常化する。（例：職員室に入室してきた際に、指導を行う。） 遅刻の多い生徒に対する指導を徹底する。（回数指導：5回担任、10回学年主任、15回学科長、20回生徒課長）	一斉指導で帰宅指導を受ける生徒の数（年間平均） A：1人未満 B：1～3人	一斉指導において帰宅指導を受ける生徒はいなかったが、普段でない生徒が当日欠席したり、遅刻して来ることがあった。	A 一斉指導において帰宅指導を受ける生徒はいなかった。遅刻の多い生徒に対して指導を行った。一定の効果があったが、特定の生徒の改善がみられなかった。	一斉指導の時だけでなく、日常的に正しい制服の着こなしができるよう、全教員で声掛け指導を徹底したい。	A																																																						
	総務課	【③】 委員会活動や学校行事において、生徒が自主的に活動できる場面を設定し支援する。（保健委員会）地域合同防災訓練で保健委員会のブースを展開し、地域に向けての自主的な活動を図る。（環境委員会）今年度より始まった、プラスチックごみの分別について浸透するように啓蒙活動を行う。（地域合同防災訓練）昨年度の振り返りを行い、生徒自ら企画運営をする活動を行う。	それぞれの活動において、自主的に取り組むことのできる設定された場面の数 A：2つ以上 B：1つ	教員の声掛けにより、生徒の自主的な活動は増えている。与えられた役割もきちんと活動できている。	B 保健委員会においては、地域合同防災訓練で、寝袋体験と防災スリッパ体験の2つのブースを新設した。地域の方や園児小学生と積極的に交流することができた。 環境委員会においては、プラゴミの分別の呼びかけポスターを作成したり、校内クリーン作戦を行った。	来年度も委員会活動を中心に、生徒の積極的かつ自主的活動ができるよう、支援していきたい。	A																																																						

令和7年度具体的な学校経営目標・計画 【最終評価】 岡山県立真庭高等学校

A：達成基準を達成した、または上回った。 B：達成基準をほぼ達成した。 C：達成基準を下回った。 ※SSQ:学校自己評価アンケート School Self-evaluation Questionnaire

学校経営目標	担当	具体的計画	達成基準	中間評価	中間評価	最終評価	次年度へ向けて	最終評価																																																																																																																																																																																																					
3 地域社会的な視野から見た人材の育成可能な ①地域、行政との連携を通じて、課題解決能力の向上 ②海外研修等を通じて、地球的な視点に立ち思考する力の獲得	経営ビジネス科	【①】 地域、行政と連携した授業、実習やイベントに参加することで、ビジネス実践力や課題解決能力を身に付けさせるとともに、地域への貢献を意識できるようにする。	生徒1人ひとりが実習やイベントなど、地域とともに学ぶ機会回数(年間) A：3回以上 B：3回未満	実習やイベント等で、地域とともに学ぶ機会を3回以上達成できている生徒が70%程度である。	B	企業と連携した商品開発の取り組みや高校生力フェスタ・chi・e、パイオマストツアーなど地域とともに学ぶ機会をたくさんつくることできた。地域とともに学ぶ機会を3回以上達成した生徒は96%程度であった。	学校では学べない実践的な学習ができるため、来年度以降も地域とともに学ぶ機会を取れるようにしていきたい。	A																																																																																																																																																																																																					
	食農生産科	【①】 地域、行政と連携した授業、行事を実施し、それぞれについて効果的な振り返りを行うことで問題の発見やその解決について考え取り組む力を向上させる。	生徒アンケートによる集計結果の肯定的意見 A：70%以上 B：35%以上	生徒アンケート(9月実施) 「食農生産科では、地域(企業や学校、こども園など)や行政と連携した授業や行事があり、課題発見や解決などについて考えたり取り組む力の向上につながっている。」 肯定的回答 94% 否定的回答 6%	A	非常に多くの行事や取り組みの中で連携を進めたり、視察研修などで知見を得る機会を設けることができた。生徒によるこれらの取り組みに対する認知度も高まった。	連携先や、視察研修などで知見を得る機会を設けたことが、生徒自身の取り組みや意識、満足度などにどの程度、どのように影響があったのか等についてアンケート等により分析を深めたい。	A																																																																																																																																																																																																					
4 効果的な情報発信 ①ホームページ、SNS、まにこうたより等によるタイムリーな情報発信 ②テレビ・新聞等へのきめ細かな取材依頼による情報発信 ③中学校進路説明会、オープンスクール等での洗練されたプレゼンを行う。	教務課	【③】 高校側の説明を生徒目線や生徒の声を使ったものを重視し、各科の特徴的学習内容や、取得できる資格、Team MANIWAを感じるプレゼンを作成する。	オープンスクール参加者数、志願者数が前年度を上回ったらA、そうでなければB ・オープンスクール <table border="1"> <tr><td></td><td>食農</td><td>経ビ</td><td>看護</td></tr> <tr><td>R4</td><td>52</td><td>34</td><td>33</td></tr> <tr><td>R5</td><td>48</td><td>51</td><td>47</td></tr> <tr><td>R6</td><td>45</td><td>46</td><td>40</td></tr> </table> ・志願者数 <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td>食農</td><td>経ビ</td><td>看護</td></tr> <tr><td>R5</td><td>特入</td><td>38</td><td>25</td><td>22</td></tr> <tr><td></td><td>一般</td><td>7</td><td>0</td><td>3</td></tr> <tr><td>R6</td><td>特入</td><td>27</td><td>22</td><td>15</td></tr> <tr><td></td><td>一般</td><td>4</td><td>2</td><td>6</td></tr> <tr><td>R7</td><td>特入</td><td>25</td><td>20</td><td>16</td></tr> <tr><td></td><td>一般</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td></tr> </table>		食農	経ビ	看護	R4	52	34	33	R5	48	51	47	R6	45	46	40			食農	経ビ	看護	R5	特入	38	25	22		一般	7	0	3	R6	特入	27	22	15		一般	4	2	6	R7	特入	25	20	16		一般	1	3	1	R7オープンスクール参加者数 食農 経ビ 看護 計 61 35 34 130 (人) ↑ ↓ ↓ 昨年に比べて若干名の減少であるが、昨年同レベルのまま広報を継続して、志願者数の増加を狙いたい。	B	R8特別入試志願者数 食農 経ビ 看護 計 35 25 11 71 (人) ↑ 9 ↓ 2 ↓ 6 ↑ 5 昨年に比べて特別入試の段階で全体で5人の増加を見た。特に食農での増加は大きい、看護で大きく下回った。 ブログ他いろいろな手段でのPRが効いていると思いたい。看護科の減少を食い止める必要がある。特入段階で全国募集ゼロであり県外でのPRになるような物が欲しい。	引き続きPRできるもの、中学生の琴線に触れるような広報を探していきたい。 中学校での学校説明会などに在校生によるPRプレゼンは効果あった。また学習活動のより一層の情報発信により学習面での魅力発信や地域企業との連携をもっと知ってもらう広報が引き続き実施していく必要がある。	A																																																																																																																																																		
		食農	経ビ	看護																																																																																																																																																																																																									
R4	52	34	33																																																																																																																																																																																																										
R5	48	51	47																																																																																																																																																																																																										
R6	45	46	40																																																																																																																																																																																																										
		食農	経ビ	看護																																																																																																																																																																																																									
R5	特入	38	25	22																																																																																																																																																																																																									
	一般	7	0	3																																																																																																																																																																																																									
R6	特入	27	22	15																																																																																																																																																																																																									
	一般	4	2	6																																																																																																																																																																																																									
R7	特入	25	20	16																																																																																																																																																																																																									
	一般	1	3	1																																																																																																																																																																																																									
5 学び続ける教職員の育成 ①「面白い」と生徒に言わせる授業を実践できるよう、授業力の向上 ②Team Maniwaの言葉を活用した、生徒教職員の組織力向上 ③年度途中での分掌、係の見直しによる業務の平準化	管理職	【③】 1 組織的対応 勤務状況・学校行事等を勘案して年度途中の分掌変更を実施し、業務の平準化を目指す。 2 個人の意識改革 ミライム集計表を分析し、教職員が自身の働き方について考える機会を持ち、意識改革を進める。 3 教職員が協働し、組織的に学校運営に取り組んでいる。	時間外在校等時間延べ人数 A：80時間超 0人 45時間超 0人 B：80時間超 0人 45時間超 50人 R6集計結果 80時間超 13人 45時間超 150人 SSQで以下の項目がすべて90%以上(表の数値はR6教師) <table border="1"> <tr><td>真庭高校で働くことにやり甲斐を感じている。</td><td>83%</td></tr> <tr><td>自分は、仕事の効率化を図り、できるだけ1時間外勤務を減らすよう工夫し働いている。</td><td>92%</td></tr> <tr><td>教職員が協働し、組織的に学校運営に取り組んでいる。</td><td>84%</td></tr> </table>	真庭高校で働くことにやり甲斐を感じている。	83%	自分は、仕事の効率化を図り、できるだけ1時間外勤務を減らすよう工夫し働いている。	92%	教職員が協働し、組織的に学校運営に取り組んでいる。	84%	時間外在校等時間延べ人数(上半期4~9月) 1 月別時間外在校等時間平均(時間)：昨年度から微増 <table border="1"> <tr><td></td><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>4-7平均</td><td>8月</td><td>9月</td><td>4-9平均</td></tr> <tr><td>R7</td><td>40</td><td>43</td><td>42</td><td>36</td><td>40.5</td><td>17</td><td>37</td><td>36.1</td></tr> <tr><td>R7目標</td><td>45</td><td>41</td><td>41</td><td>31</td><td>39.5</td><td>17</td><td>35</td><td>35.0</td></tr> <tr><td>目標比(%)</td><td>90</td><td>106</td><td>103</td><td>116</td><td>102</td><td>103</td><td>106</td><td>103</td></tr> <tr><td>昨年比(%)</td><td>86</td><td>96</td><td>111</td><td>116</td><td>102</td><td>134</td><td>110</td><td>104</td></tr> <tr><td>R6</td><td>47</td><td>45</td><td>38</td><td>31</td><td>40.3</td><td>13</td><td>34</td><td>34.7</td></tr> </table> 2 超過時間別度数(人)：昨年度比80↑4増、45↑9増 <table border="1"> <tr><td></td><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>のべ人数</td><td>月平均</td><td>R6 4-9月計</td></tr> <tr><td>100h~</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>0.2</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>80~100h未満</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>12</td><td>2.0</td><td>8</td></tr> <tr><td>45~80h未満</td><td>18</td><td>21</td><td>22</td><td>18</td><td>2</td><td>20</td><td>101</td><td>16.8</td><td>92</td></tr> <tr><td>0~45h未満</td><td>26</td><td>24</td><td>24</td><td>29</td><td>45</td><td>26</td><td>174</td><td>29.0</td><td>192</td></tr> </table>		4月	5月	6月	7月	4-7平均	8月	9月	4-9平均	R7	40	43	42	36	40.5	17	37	36.1	R7目標	45	41	41	31	39.5	17	35	35.0	目標比(%)	90	106	103	116	102	103	106	103	昨年比(%)	86	96	111	116	102	134	110	104	R6	47	45	38	31	40.3	13	34	34.7		4月	5月	6月	7月	8月	9月	のべ人数	月平均	R6 4-9月計	100h~	1	0	0	0	0	1	0.2	2	2	80~100h未満	3	3	2	1	1	2	12	2.0	8	45~80h未満	18	21	22	18	2	20	101	16.8	92	0~45h未満	26	24	24	29	45	26	174	29.0	192	B	時間外在校等時間延べ人数(4~12月) 1 月別時間外在校等時間平均(時間)：昨年度から微増 <table border="1"> <tr><td></td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>8-12平均</td><td>4-12平均</td></tr> <tr><td>R7</td><td>38</td><td>33</td><td>29</td><td>31</td><td>35</td></tr> <tr><td>R7目標</td><td>36</td><td>35</td><td>29</td><td>30</td><td>34</td></tr> <tr><td>目標比(%)</td><td>106</td><td>94</td><td>100</td><td>102</td><td>103</td></tr> <tr><td>昨年比(%)</td><td>103</td><td>97</td><td>107</td><td>111</td><td>107</td></tr> <tr><td>R6</td><td>37</td><td>34</td><td>27</td><td>29</td><td>34</td></tr> </table> 2 超過時間別度数(人)：昨年度比80↑6増、45↑3増 <table border="1"> <tr><td></td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>4~12月のべ人数</td><td>月平均</td><td>R6 4-12月</td></tr> <tr><td>100h~</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>0.1</td><td>3</td></tr> <tr><td>80~100h未満</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td><td>17</td><td>1.5</td><td>11</td></tr> <tr><td>45~80h未満</td><td>15</td><td>11</td><td>8</td><td>135</td><td>12.3</td><td>132</td></tr> <tr><td>0~45h未満</td><td>30</td><td>36</td><td>39</td><td>423</td><td>38.5</td><td>295</td></tr> </table>		10月	11月	12月	8-12平均	4-12平均	R7	38	33	29	31	35	R7目標	36	35	29	30	34	目標比(%)	106	94	100	102	103	昨年比(%)	103	97	107	111	107	R6	37	34	27	29	34		10月	11月	12月	4~12月のべ人数	月平均	R6 4-12月	100h~	0	0	0	1	0.1	3	80~100h未満	3	1	1	17	1.5	11	45~80h未満	15	11	8	135	12.3	132	0~45h未満	30	36	39	423	38.5	295	SSQ集計結果 <table border="1"> <tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr> <tr><td>真庭高校で働くことにやり甲斐を感じている。</td><td>61%</td><td>83%</td><td>86%</td></tr> <tr><td>自分は、仕事の効率化を図り、できるだけ1時間外勤務を減らすよう工夫して働いている。</td><td>72%</td><td>92%</td><td>85%</td></tr> <tr><td>教職員が協働し、組織的に学校運営に取り組んでいる。</td><td>50%</td><td>84%</td><td>88%</td></tr> </table> ・時間外在高等時間80時間超人数、45時間超人数のいずれも目標を達成できなかった。 ・SSQ集計結果からは3項目とも80%台を維持しており十分な結果と言えるが、90%は達成できなかった。 ・45時間超を0人にするについて教職員間でさらに意識を共有し、個々に目標を設定するなど改善を図りたい。		R5	R6	R7	真庭高校で働くことにやり甲斐を感じている。	61%	83%	86%	自分は、仕事の効率化を図り、できるだけ1時間外勤務を減らすよう工夫して働いている。	72%	92%	85%	教職員が協働し、組織的に学校運営に取り組んでいる。	50%	84%	88%	B
	真庭高校で働くことにやり甲斐を感じている。	83%																																																																																																																																																																																																											
自分は、仕事の効率化を図り、できるだけ1時間外勤務を減らすよう工夫し働いている。	92%																																																																																																																																																																																																												
教職員が協働し、組織的に学校運営に取り組んでいる。	84%																																																																																																																																																																																																												
	4月	5月	6月	7月	4-7平均	8月	9月	4-9平均																																																																																																																																																																																																					
R7	40	43	42	36	40.5	17	37	36.1																																																																																																																																																																																																					
R7目標	45	41	41	31	39.5	17	35	35.0																																																																																																																																																																																																					
目標比(%)	90	106	103	116	102	103	106	103																																																																																																																																																																																																					
昨年比(%)	86	96	111	116	102	134	110	104																																																																																																																																																																																																					
R6	47	45	38	31	40.3	13	34	34.7																																																																																																																																																																																																					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	のべ人数	月平均	R6 4-9月計																																																																																																																																																																																																				
100h~	1	0	0	0	0	1	0.2	2	2																																																																																																																																																																																																				
80~100h未満	3	3	2	1	1	2	12	2.0	8																																																																																																																																																																																																				
45~80h未満	18	21	22	18	2	20	101	16.8	92																																																																																																																																																																																																				
0~45h未満	26	24	24	29	45	26	174	29.0	192																																																																																																																																																																																																				
	10月	11月	12月	8-12平均	4-12平均																																																																																																																																																																																																								
R7	38	33	29	31	35																																																																																																																																																																																																								
R7目標	36	35	29	30	34																																																																																																																																																																																																								
目標比(%)	106	94	100	102	103																																																																																																																																																																																																								
昨年比(%)	103	97	107	111	107																																																																																																																																																																																																								
R6	37	34	27	29	34																																																																																																																																																																																																								
	10月	11月	12月	4~12月のべ人数	月平均	R6 4-12月																																																																																																																																																																																																							
100h~	0	0	0	1	0.1	3																																																																																																																																																																																																							
80~100h未満	3	1	1	17	1.5	11																																																																																																																																																																																																							
45~80h未満	15	11	8	135	12.3	132																																																																																																																																																																																																							
0~45h未満	30	36	39	423	38.5	295																																																																																																																																																																																																							
	R5	R6	R7																																																																																																																																																																																																										
真庭高校で働くことにやり甲斐を感じている。	61%	83%	86%																																																																																																																																																																																																										
自分は、仕事の効率化を図り、できるだけ1時間外勤務を減らすよう工夫して働いている。	72%	92%	85%																																																																																																																																																																																																										
教職員が協働し、組織的に学校運営に取り組んでいる。	50%	84%	88%																																																																																																																																																																																																										
2 年		【②】 「未来を生きるため、協力すべきときにチームで動く練習ができるように働きかける。」 ・LHR・TR・授業で、グループで話し合いができるように話し合いの始まりと終わりを意識させる。 ・LHR・TR・授業で、グループで話し合いをしたとき、良い場面を褒める。また、改善のアドバイスを送る。	生徒アンケートで「チームで動くことができた。」と回答 A：80%以上の生徒ができた B：50%以上の生徒ができた 2年団の先生方から「生徒たちが、前向きな表現ができるようになった。」と回答 A：80%以上でできた B：50%以上でできた	生徒アンケートで「チーム真庭を意識して、チームでの活動ができましたか。」について「そう思う」55%、「どちらかといえばそう思う」34%で、合計89% 2年団の先生方から「生徒たちが、前向きな表現ができるようになった。」と回答50%程度	A B	生徒アンケートで「チーム真庭を意識して、チームでの活動ができましたか。」について「そう思う」57%、「どちらかといえばそう思う」32%で、合計89% 2年団の先生方から「生徒たちが、前向きな表現ができるようになった。」と回答92%程度	個人的な努力で自分を向上させることはもちろん必要だが、何か成果が出ることを達成するためにはチームで協力しながら行わなければならないことを継続して伝えていきたい。	A																																																																																																																																																																																																					
	事務室	【②】 事務担当者や教員の情報共有を丁寧に行うこと業務分担を明確にし、充実した教育活動とする。特に、生産物等の販売についてはSNS等による広報も含め販売業務の支援をする。	学校評価アンケート(教職員)のQ3「教職員が協働し、組織的に学校運営に取り組んでいる」について肯定的回答による。 A：80%以上 B：50%以上~80%未満	学校行事・授業等で来客がある場合、情報を共有できたものについては玄関等に案内板を設置した。生産物の販売については、Instagramで広報し販売業務支援に務めた。	B	学校評価アンケート(教職員)Q3の結果は88%であった。	今まで以上に事務担当者や教員の情報共有を行い、充実した教育活動となるよう学校経営に取り組む。	A																																																																																																																																																																																																					